

③	②	①
せかいの かくち	おそなえを おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな もの	ウ

「かいせつ」

(1) おまつりを たのしみに する ようすを
あらわす ことばが 入ります。

(2) と (3) は 文しょうの つぎの ばしょ
に かかれて います。

おまつりと きくと たのしみて、 なんだか
わくわくして きます。 たくさんの 人が あつ
まって 大さわぎを したり、 ごちそうを たべ
たり するからでしょうか。

② おまつりは、 もともとは おそなえを して、
うたや おどりで かみさまを むかえると い
う しゅうきょうてきな ものでした。

③ おまつりの ない くにや みんなぞくは あり
ません。 おまつりは、 せかいの かくちに あ
るのです。

③	②	①
ア	六百いじょうの きよく	あたらしい 音がくを たくさん つくったから その じだいの

「かいせつ」

(1)と(2)は文しょうの つぎの ばしょにかかれて います。

モーツァルトと いう 音がくかを しって いますか。モーツァルトは、天さいと いわれ ています。その じだいの あたらしい 音がくを たくさん つくったからです。な くなるまでの 三十五年かんで 六百いじょうもの きよくをつくって いるのです。それは いまものこって います。

モーツァルトが なくなつてから 二百年いじょうがたちました。いまでも たくさんの 人がモーツァルトの きよくを きいて います。

(3)モーツァルトは いまに のこる きよくを たくさん つくって いるので、いまでも たくさんの 人に きかれて います。



③	②	①
せ か い の か く ち	お そ な え を し て、 う た や お ど り で か み さ ま を む か え る と い う し ゅ う き よ う て き な も の	た く さ ん の 人 が あ つ ま っ て 大 さ わ ぎ を し た り、 ご ち そ う を た べ た り す る か ら

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

① おまつりが ちかく になると、わくわくして きます。たくさんの 人が あつまって 大さわ ぎを したり、ごちそうを たべたり するから です。

② おまつりは、もともとは おそなえを して、 うたや おどりで かみさまを むかえると い う しゅうきょうてきな ものでした。

③ おまつりの ない くにや みんなぞくは ありません。おまつりは、せかいの かくちに あ るのです。



③	②	①
六百いじょうの きよく	た くさん つくったから あ たらしい 音 がく を	その じだいの 二百 年 いじょう

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

① モーツァルトが なくなってから 二百年いじょうが たちました。いまでも たくさんの 人が モーツァルトの きよくを きいて います。

② モーツァルトと いう 音がくかは 天さいとよばれて います。その じだいの あたらしい音がくを たくさん つくったからです。③ モーツァルトは、なくなるまでの 三十五年かんで 六百いじょうもの 名きよくを つくって います。



③	②	①
イ	三 かい	しっぽのような せんを ひきながら、 ひかってとんで いく もの

「かいせつ」

（１）と（２）は文しょうのつぎのばしょにかかれています。

よるの空をみつめていると、しっぽの
ようなせんをひきながら、ひかってとんで
いくものがきゆうにあらわれることが
あります。これがながれぼしです。

ながれぼしがひかっているのは、
一びょうほど。そのながれぼしがきえない
うちにねがいごとを三かいいうと、それが
かなうといわれています。

（３）一びょうほどというすくないじかん
をあらわすことばが入ります。



③	②	①
ウ	ひかって とんで いく もの ひきながら、 しっぽのような せんを	三かい

「かいせつ」

①と②は文しょうの つぎの ばしょにかかれて います。

①
ながれぼしが きえない うちに ねがいごとを 三かい いうと、それが かなうと いわれています。

②
ながれぼしとは、よるの 空を みつめて いると、しっぽのような せんを ひきながら、ひかって とんで いく ものです。

ながれぼしが ひかって いるのは、わずかに びようほど。だから、三かいも ねがいごとを いうのは とても **むずかしい** ですね。

③
わずかな じかんに 三かいも ねがいごとを することの たいへんさを あらわす ことばが 入ります。